Frederic Milton Thrasher, "The Gang: A Study of 1,313 Gangs in Chicago." In Burgess and Bogue ed. *Contributions to Urban Sociology*, Chicago: University of Chicago Press. 1964.

ギャング――シカゴにおける 1,313 のギャングの研究*

フレデリック・ミルトン・スラッシャー

松本康訳

シカゴにおけるギャングの全数調査では、都市とその周辺に 1,313 のこのタイプの集団があることが明らかにされた。それは、ほとんどが 10 歳から 25 歳の少年と若い男性から構成されていた。十分な数のこれらのギャングが位置している場所は、かれらの一般的な生息地が、都市の中心業務地区（ループ）を取り巻く推移地帯（「貧困ベルト」）という幅広い半円の地帯であると規定するのに十分であった。かれらはまた、より良い住宅地域の隙間にある業務街、鉄道線路、そして多くの水域に沿ったところにも見いだされた。ギャングの典型的な生息地を研究することから得られた結論は、ギャングが地理的に隙間集団であり、業務用、工業用、鉄道用の土地によって形成される隙間で隆盛を極めているということであった。

ギャング活動の過程に関する研究は、ギャングの起源が、都市の密集し解体している部分において最も容易に形成される少年の遊び集団や類似の集まりにあることが明らかとなった。これらの地域は、多くの点で、経済的、文化的、道徳的に辺境に類似していることがわかった。このように、ギャングがコミュニティの解体と相関していることから、それは社会的に隙間集団であるという結論が得られた。他の都市や他の地域におけるギャングの調査研究は、この解釈を一般的に実証していた。

発見された事例の検討からは、ギャングは、地元近隣地区やその他の場所において敵対的な勢力と出会う結果として、連合し連帯性を獲得する抗争集団であることが明らかとなった。以下のような定義が定式化された。

「ギャングは、もともと自発的に形成され、のちに抗争をつうじて統合された隙間集団である。それは、つぎのような行動タイプによって特徴づけられる。対面的に集まり、無目的に動きまわり（milling）、一単位として空間を移動し、抗争し、計画する。この集合行動の結果、伝統、無反省な内部構造、団結心、連帯性、士気、集団意識、そして地域のなわばりへの愛着を発達させる」。

発達の観点から、３つのタイプのギャングが見いだされた。もっとも、各タイプは混じり合い、それらのあいだに厳格な分割線があるわけではなかった。これらのうちの第一のものである拡散型は、統合の初期段階にある緩やかに編まれた集団であった。第二の団結型は、統合過程が完了したことを表しており、その結果、高度の連帯性と士気を保持して

*スラッシャー博士の同一タイトルの学位論文は、1936 年にシカゴ大学出版会から刊行された〔初版は 1927 年に出版されている〕。この梗概は、著者によって用意され、シカゴ大学図書館に寄託されたものである。ここでは、変更を加えずに復刻している。

いた。第三のタイプである因習化したギャングは、そのような集団がクラブやもっと公式的なパターンなどの外部的な特徴を帯びる場合に現れる。ギャングのふたつの変種は、秘密結社と大人の犯罪集団である。ある年齢タイプも区別されるかもしれないが、これまで考えられてきたほどには、年齢を基礎とした凝離は存在しない。

ギャングの生活に関する研究から、ランダムな動き、ゲームとギャンブル、略奪行為、商業化されたレクリエーション、スポーツ、運動への愛顧、そして刺激剤への耽溺のような多様な活動が明らかになった。これらのいっさいは、ギャング少年の生活における支配的な動機が、「新しい経験」やなんらかのかたちの興奮への願望であることを示していた。一、二世代まえのギャングの関心をひいていた三文小説（dime　novel）は、「映画」に置き換えられてきたことがわかった。ギャング少年は、映画から得られるスリルのために映画を大いに楽しんでいた。

これらの少年たちが冒険の世界に生きていることは、明らかだった。気づかない大人たちには、その世界を理解することは難しかった。かれらの想像力あふれる英雄的行為は、共感しない部外者にとっては、往々にして無意味なものであったが、少年にとっては重要であった。おのおののギャングは、地域のなわばりをもっており、それを部外者から防衛し、その中心には、ふつう「溜まり場」として知られる城があった。ギャングの独自のなわばりを越えたところに、たいてい、あるお気に入りの「遊び場」があり、それは無秩序な業務街、河川、運河、湖畔、ループ、新聞社の「路地」、そして公園と保安林を含んでいた。都市の物理的なレイアウトは、「状況複合体」の一部であることがわかった。それは、ギャングの生活を条件づけ、方向づける重要な要因であることが示された。これはとくに、鉄道と、ほとんど普遍的に見られるギャング活動である「廃品回収（junking）」との関係によって例証された。

ギャングの少年は、知らない地域を放浪して探検することが好きだった。ときどき、かれらは遠出して、何週間も、ときには何ヶ月も家と学校を離れることがあることが知られていた。このように徘徊し放浪する傾向は、往々にして非行をひきおこした。ギャングの戦争も、典型的な活動であることがわかった。ギャングランドには一種の「生存闘争」があった。それは、遊びの特権、所有権、成員の身体の安全、そして近隣地区における地位の維持のために、防衛したり攻撃したりするあらゆるギャングの存在に必要となるものだった。これらの抗争は、ある場合にはいつ終わるともしれない敵対関係に発展し、ビールを買いに走る〔禁酒法下での違法行為〕年上のギャングのあいだの血で血を洗う抗争の形態をとった。ギャングの喧嘩は、概して、基本的なタイプのものであったが、社会的に受容可能な代用物が抗争の代わりに提供されうることが発見された。それは、争いを解決する手段として、そして少年たちに興奮とかれらが強く望んでいる優越性を示す機会を与える手段として役立っていた。

ギャングの人種と国籍の要因に関する研究からは、シカゴのギャングが基本的に、外国生まれの移民の子どもたちの現象であることが明らかになった。移民の子どもは、親の統制を逃れ、表面的にアメリカ化する傾向がある。家族、学校、教会、そしてレクリエーションのような通常の監督制度は、ギャングランドの内側の辺境地帯では崩壊し、ギャングは一種の代用組織として発生する。同質的な近隣地区では、ギャングは、他の国籍のギャング、とくにヨーロッパにおいて伝統的に敵対関係にある国籍のギャングとの戦争を遂行

する同じ国籍の少年たちから構成されていることがわかった。しかし、異質的な近隣地区では、一種の原始的な民主主義があり、あらゆる国籍と白人と黒人の双方の人種の少年たちが平等に混ざっていた。同様に、黒人のギャングと白人のギャングが、相互に調整されていない隣接する近隣地区に住んでいる場合には、たがいに不倶戴天の敵であることがわかった。しかし、混在している近隣地区では、かれらは肌の色に関係なくギャングに入っていた。

少女たちがギャングを形成することは、彼女たちの家庭が機能していない非常にまれな場合を除いて、ないことが発見された。少年たちがギャングを形成するのは、かれらが因習的な統制から自由であったからであるが、少女たちは、解体したコミュニティでさえその組織化された生活によく編入されていたので、統制を逃れることはできなかった。少女たちに対するより年下のギャングの態度は、概して、敵対的であった。なぜなら、彼女たちはギャング活動の妨げになるからであった。それにもかかわらず、性的な事柄について広範でしばしば不健全な関心があった。年上のギャングは、ダンス、ピクニック、その他の少女を含めた活動を好んでいた。その一方で、女性たちはしばしば、犯罪集団の活動に参加していた。

ギャングは、概して、都市の支配的で、評判の良い集団の生活から隔てられていた。ギャングは、解体していないごくわずかな社会的パターンと接触するようになった。かれらの道徳性は、こうして決定された。社会的パターンは、近隣地区の年下のギャングのために、年上のギャングとギャング・クラブによってしつらえられ、それらが今度は、かれらを取り巻く悪徳、ギャンブル、犯罪、そして一般的な無法行為の影響を受けていた。ギャングの少年たちは、概して街頭の教育の影響を受け、これはかれらの話し方、歌と詩、かれらのあだ名、そして自分たちのクラブに採用する名称に反映していた。

ギャングにおける集団統制は､社会集団の他のタイプのそれに似ていることがわかった。共同の企てを実行するために必要となる統一と連帯性を達成するために、ギャングは、懲罰、嘲笑、称賛のようなメカニズムを用いた。つぎに、群集行動で経験されるような、相互興奮（mutual excitation）や感情的な親密さのような無反省なタイプの統制も存在した。大胆さに例証される累積（summation）の過程は、往々にして、無謀な行為や不法な行為の永続化をひきおこす。共通の経験の結果として、ギャングは、通常はまったく無意識に、掟を発達させ、自然の無反省の構造を発達させる。この構造は、ギャングの行為パターンとして考えられるかもしれないが、リーダーを頂点とし、「側近」があり、ヒラがいて、最後に「腰ぎんちゃく（fringers）」つまり取り巻きがいる成員と成員階級の上下関係を表していた。数多くのタイプのリーダーシップが出現し、さまざまな種類のパーソナリティが、ギャングの成員によって演じられるさまざまな役割に対応して発達した。

すべてのギャングは、アスレチック・クラブになることを望んでおり、ギャングの多くは、成員が年を重ねると、いくらか因習的な形態を帯びた。アスレチック・クラブは、多様なタイプのものが見いだされるものの、そのほとんどは、もっと公式的なタイプの組織をともなう場合でさえ、基本的にギャングの特徴を保持していた。ふたつのタイプのクラブが発見された。政治家、酒場の店主、その他に補助されているものと、財政的に独立しようとしているものである。

ギャングの発達の結果として生じる問題の主要な側面は、その成員の道徳的堕落、犯罪

の組織化、政治の腐敗、そして一般的な無秩序（たとえば、人種暴動）であった。ギャングは、成員の道徳的堕落の重要な要因であり、無断欠席、矯正不可能性、家出、非行、粗暴、最終的には犯罪を助長していた。典型的なギャング少年は、矯正施設への収容を含む一連の段階を経過し、多くの場合に最終的に完全な犯罪者に転じた。

ギャングは、シカゴにおける犯罪組織の重要な要因であることがわかった。年下の青年ギャングは、大部分の軽微な非行の張本人であった。年上のギャングは、たいてい、非行の企てに関わっており、ギャング・クラブも、同様に、しばしば犯罪集団に準ずるものであった。都市の重大な犯罪は、概して、ヤングアダルトのギャングによって実行されていた。そこには、通常は、社会的淘汰過程の結果として、犯罪的な残滓からなる多くの青年の成員も含まれていた。これらの年上のギャングは、しばしば、犯罪団やシンジケートに所属して、暴力やこわおもての仕事を必要とする職務を遂行することによって、それらを助けていた。

ギャングは犯罪と政治のあいだの腐敗した同盟を促進してきたことを示した。政治家は、若い青年の集団から始めることさえあり、さまざまなタイプの補助によって気に入られようとしていた。かれは、多くの点でギャング・クラブをひいきにして、その活動を後援し、金を渡し、かれらのために当局の干渉からの免責特権を確保してやっていた。その見返りに、ギャングは政治家からの好意を得て、選挙の日には彼を支持し、投票所でこわおもての仕事をして、しばしばこうして選挙区全体を動かすことができた。最も緊密な結合は、公職者とギャングとのあいだに存在することが発見された。

この問題に取り組むふたつの方法を示した。第一は、たいていは経済的進歩にともなうコミュニティ解体の諸条件――都市内部の辺境を特徴づけるものであり、ギャングはそのひとつの兆候にすぎない――のいくつかを改善する試みであった。この基本的な統制を達成する過程――それには家族生活の再組織化、アメリカ化、貧困の減少、教会、学校、組織化されたレクリエーションのような制度の回復などが含まれる――は、漸進的なものにすぎず、時間がかかるであろう。その間に、じっさいのギャングとその形成途上にあるものが認識されなければならず、コミュニティ生活のなかに、かれらのための場所がつくられなければならないことを指摘した。

この問題は、かれらのエネルギーをもっと健全な水路に方向づけ直す問題になった。このことは、ふたつの方法でうまくなされてきたことがわかった。ギャングをクラブにして、その活動をもっと健全なものにするために必要な監督をつけることによって、あるいは、ギャングをより大きな制度に吸収して、より大きな枠組みの内部で、新しい関心と新しい忠誠心を生みだすことによってである。警察と裁判所で通常流行しているギャング少年をあつかう伝統的な方法は失敗であることが指摘された。これらの公的機関のほとんどは、少年をあたかも社会的真空状態に存在するかのように処遇しようとしてきた。しかし、かれを集団の成員として認識し、個人としてというよりも人格（person）として処遇することが最も重要である。ギャング少年とギャングをあつかう最も有望な方法は、コミュニティ生活における場所をかれらに与えることであり、かれらのエネルギーを、おもしろい、しかし社会的に有用な活動に向けることである。それは、より大きな準拠枠組みのなかで意味と意義をもつような活動である。

この研究を準備するなかで用いられた方法を簡単に述べよう。統計的な目的のために、

シカゴのギャングについての全数調査を実施した。そこには、成員の数、都市とその周辺における分布、年齢、人種、性別、国籍の構成、溜まり場、かれらの活動の一般的な性質と範囲のような事実が含まれていた。ギャングの分布を示し、ギャングランドと都市の他の自然地域との関係を示す地点地図がつくられた。

ギャングの生息地の完全な姿を呈示するために、全数調査で明らかとなった典型的なギャング地域の研究が実施された。これは、記述的であるとともに歴史的な線に沿って発展しがちであった。

ギャングとギャング少年の事例研究の収集は、調査研究の非常に重要な部分であった。この方法によって、ギャングとその生活は、読者にとって生き生きとしたものになり、調査研究者は、統計を解釈し、個々の少年とギャングの活動において作用しているメカニズムを決定することが可能となった。ギャングと他の問題との関連や影響は、概して事例研究法によって研究された。

ギャングとギャングの生活に関する文献は、きわめて乏しいことがわかった。広範なインタビューは、印刷された情報源の欠如を補う傾向があった。インタビューは、少年たちを処遇する民間および公的な機関の大半の職員に対して行った。これらの機関は、職員が質問紙に記入することによって、重要なデータ源としても役に立った。それらの機関の印刷された紀要と報告書、および公刊されていない記録は、他の情報源から得られた資料を補うのに貴重であった。

この研究にとって最も価値ある資料は、ギャングの成員であるか成員であった少年たちから得られた。多くの少年は、街頭や近隣地区の施設でインタビューを受けた。100 人以上の少年が、シカゴ・クック郡少年院（Chicago Cook County School for Boys）でインタビューを受け、28 人がシカゴ問題児収容施設（Chicago Parental School）でインタビューを受けた。

少年自身の話を得るのにしたがった技法は、共感的なアプローチのひとつとして記述できるだろう。控えめな態度のカーテンを突破し、少年自身の社会的世界に入り込み、少年自身の論議領域（universe of discourse）の用語で話すために、あらゆる努力がなされた。少年は、いわば、自分自身の目をとおして自分の社会的世界を見ようとした。

ギャングの行動の直接観察は、調査研究者によって、近隣地区のギャングがクラブ活動のために集うようになったセツルメントとそれに類似した施設でなされた。ギャングは、街頭や路地、空き地、遊び場、そしていわゆる「プレーリー〔大草原〕」などの生息環境において研究された。ときどき、調査研究者は、街頭でギャングと知り合いになることがあった。ときに、調査研究者は、溜まり場の秘密に入り込み、生息環境をギャングといっしょにうろつくことがあった。ギャングの物的・社会的環境も、直接、研究した。可能な場合には写真を撮った。

ギャングの全数調査は、利用可能なあらゆる情報源から、可能なかぎり多くの異なるギャングについてのデータを集めることによって行った。事例研究は、少年自身の話と個人的観察、地域住民や公職者へのインタビュー、可能な場合には公式記録文書とを組み合わせて構築した。できるかぎり、都市〔シカゴ〕におけるギャングについての情報は、見逃さなかった。